



村山 正利 議員 (自民新国会)

### 今後4年間の町政運営について



#### 町長 デジタル化で産業を育成したい

**質問** 5月16日から多くの町民の方々からの信任を受けて2期目の杉浦町政が進められている。1期目での実績を踏まえ、その行政手腕への期待が高まっていると認識している。

そこで、次の点について町長の見解を伺う。

**問①** 今回の選挙戦と選挙結果の分析をどう捉えているのか。

**町長** ハード、ソフトの両面で、公約のほとんどを達成、あるいは着手したことが評価されたと考えている。

**問②** 住民に対する具体的なマニフェストはあるのか。

**町長** 長期総合計画で、目指すべき各種計画を示している。

**問③** 4年間で実施し



町内の工業団地

**PFI (プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) とは**  
民間の資金とノウハウを活用して、公共施設等の建設、維持管理や運営を行う手法のこと。

**質問** マイナンバーカードを利用したコンビニ交付は、住民票や印鑑証明などを早朝から夜まで、また土日祝日でも、全国のコンビニなどで、簡単な操作ですぐに取得できるサービスである。利便性が高く、住民サービ

スの向上につながる。さらに窓口業務の負担が軽減され、職員の働き方改革に貢献し、人件費の削減も可能となる。コロナ禍の今、密を避けデジタル化の一貫としてもコンビニ交付を早期に導入すべきと考えるが、町長の所見を伺う。

**町長** コンビニエンスストアでの交付サービスは、マイナンバーカードの取得を前提としているが、現在の町の普及率は24・8%である。また、導入時のインシャルコスト、システム運用のためのランニングコストなど、財政的負担が発生する。現在、税金を投入するサービスの二重投資や肥大化を招かぬよう、明確な費用対効果や戦略的に効率化が図れるかなどの精査を進めており、結果を踏まえ、導入への取り組みについて考える。

原 隆夫 議員 (公明党)

### 証明書のコンビニ交付の早期導入を



#### 町長 費用対効果などを精査して考える



将来、証明書交付が期待されるコンビニのコピー機



榎本 義輝 議員 (自民誠和会)

### 旧青梅街道の危険因子の排除を!



#### 町長 交通事故の未然防止に努めていく

**質問** 町民の方と立ち話をしていると「旧青梅街道で人が一番横断する所は?」という話題になった。

その場所は箱根ヶ崎の時計台の東側に位置し、通学時には農芸高校の生徒の横断が多い。しかし、横断歩道はあ

るものの信号機は無く、歩道もあるとは言えず、街灯も暗いなど危険因子が潜んでいる。都道とは十分承知しているが、都への改善要請はもとより、早急な対策が必要と思うが、町長の所見を伺う。

**町長** この場所は、以前にも福生警察署と信号機設置について協議した経緯があるが、他の信号機からの距離などの条件があり、現段階で設置には至っていない。危ない場所であることには間違いのないため、引き続き協議が必要と考える。横断歩



利用者が多い信号のない横断歩道

#### こんな質問もありました

#### 姉妹都市・友好合意都市の意義とは

**町長** 教育、文化など国際感覚を身に付けることや行政機能について考える機会となる。

### 社会的孤立防止対策の取り組みを問う



#### 町長 地域住民の方々と共生社会の実現を目指す

**質問** コロナ禍はSDGsの目指す「誰一人取り残さない」社会へ悪影響を及ぼしている。失業による生活困窮、三密回避による人との関わり制限などが、高齢者、女性、子ども、若者などさまざまな人の社会的孤立を加速させている。孤立はDVや孤独死、自殺などへつながる可能性がある。SOSをいち早く察知し、支援や自立につなげるため、国の支援の活用も踏まえ、町は社会的孤立防止対策にどのように取り組むのか、所見を伺う。

**町長** 国と都では個人や世帯向けに、さまざまな方法での相談支援を展開し、町でもオンライン、電話、家庭訪問、面接などを継続して実施している。また、西多摩福祉事務所などとも連携し、民生委員など、地域を見守る方からの情報収集も強化している。さらに、学校では、子どもの様子

の変化など教育委員会、福祉部門との連携や情報共有に努めている。今後も、地域住民の方と共に、地域共生社会の実現を目指し、地域保健福祉を推進していく。



左上：相談支援は町内各所で行われている。  
右下：子どもたちの居場所づくりのため、西多摩くらしの相談センターは「ちえの輪」を開催している。